

ひと

米名門音楽院のリサイタルで喝采を浴びた

おおにし たかおき
大西 宇宙 さん(28)

少年の面影が残る甘いマスクから、圧倒的音量のバリトンを響き渡らせる。175センチ、85キロの体格は舞台では一回り大きく見える。

昨年9月、名門ジュリアード音楽院の音楽科に合格。以来、国際コンクールで上位入賞を続け、今年3月には、音楽科全66人の中で上位2人だけに与えられる「榮譽者リサイタル」に日本人で初めて

出演。ラベルの「ドウルシネア姫に心を寄せるドン・キホーテ」など11曲を歌うと、総立ちの聴衆の拍手はしばらくもまなかつた。

両親は会社員。子ども時代、音楽の英才教育を受けたことはない。高2の冬、同じ吹奏楽部の親友の「楽器を介さずに表現する歌こそが最高の芸術」という一言でオペラ歌手を目指そうと決意。両親を説得し、中高一貫の進学校から武蔵野音大音楽科に進んだ。

ニューヨークのメトロポリタン歌劇場で、ドン・ジョバンニを演じるのが高校時代からの夢だ。「次々と女性の心を奪う役。よほど魅力がないと無理で、挑戦のしがいがある。「日本人としては頑張っている」で終わりたいくない」

6年前、父・慎さん(享年58)を心臓発作で亡くした。榮譽者リサイタルでは、亡き父との対話を主題にした日本歌曲「くちなし」を祈るように歌った。「種やかな人で、僕を尊重し、やりたいことをやらせてくれた。父を思うと、もっと頑張ろうと思うんです」

文・写真 春日芳寛